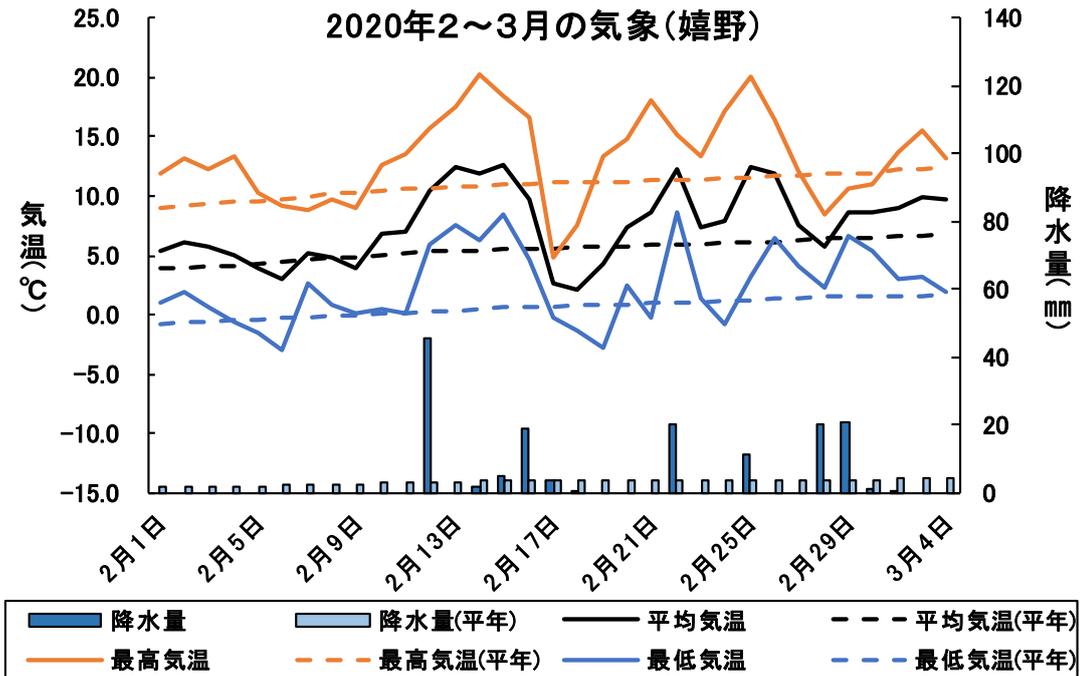


# 令和2年お茶づくり技術情報 (No.2)

2020年(令和2年)3月6日  
佐賀県茶業技術協会  
佐賀県茶業試験場

## 1. 気象と生育

### (1) これまでの気象と生育



- 1) 気温は、2月上旬は平年並み、2月中旬以降は平年より高く推移した。
- 2) 降水量は、2月中下旬にまとまった降雨があり、平年より多かった。
- 3) 本年の越冬芽の生育は進んでおり、樹勢が良い早生品種園ではすでに萌芽している芽がみられる。



写真 さえみどりの越冬芽  
(3/5撮影、秋整枝10/21)



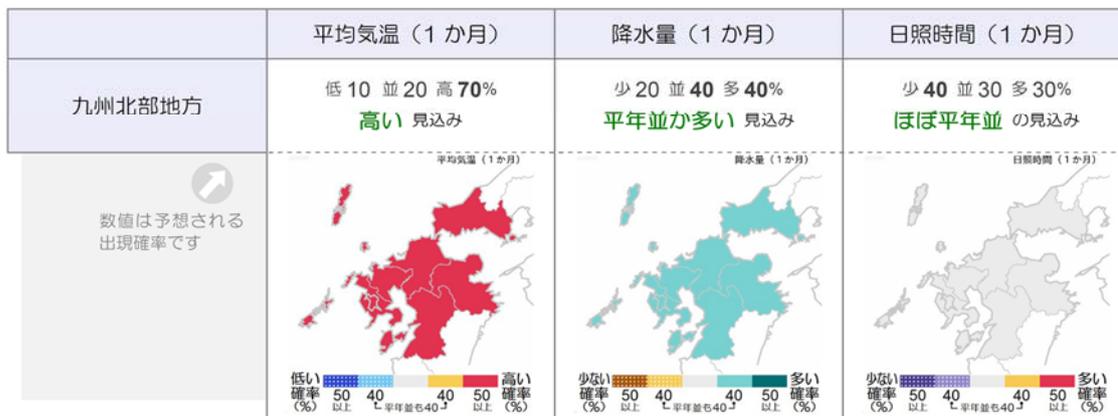
写真 やぶきたの越冬芽  
(3/5撮影、秋整枝10/21)

## (2) 今後の気象の見通し

### 向こう1か月の天候の見通し 九州北部地方 (3月7日~4月6日)

福岡管区気象台  
1か月予報 (令和2年3月5日発表)

#### 1か月の平均気温・降水量・日照時間

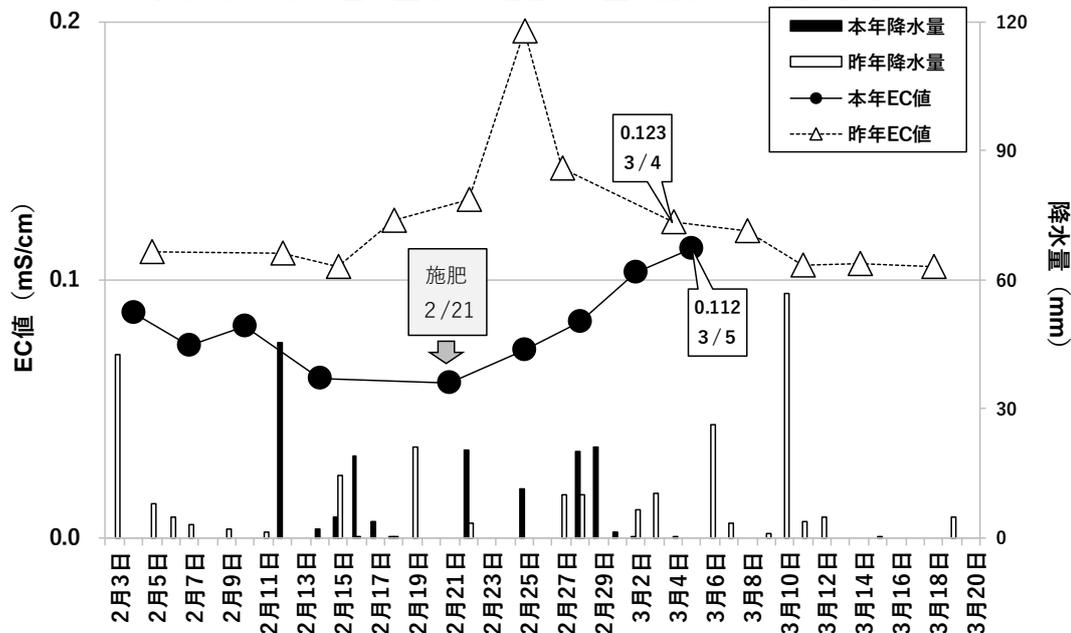


- 1) 向こう1か月の天候は、平均気温は平年より高く、降水量は平年並みか多い見込みである。

## 2. 今後の管理

### (1) 施肥管理

試験場作況調査園の土壌 EC 値と降水量の推移 (2019、2020 年)



- 1) 試験場内の土壌 EC は、2月上中旬は低く推移したが、施肥後、適度な降雨もあり、徐々に上昇し、最新の EC 値は 0.112 (3月5日測定) と前年並みとなっている。(佐賀県土壌診断基準による3月~4月の目標値は 0.2~0.4)。

- 2) 向こう1か月の天候の見通しから、今後、芽や根の動きも平年より早まると考えられるため、春肥2・芽出し肥の施用が遅れないよう確実に行う。
- 3) 芽出し肥の施用は、一番茶摘採の30~40日前を基本とし、施肥後は土壌と混和する。
- 4) 分施する場合には最終施肥として速効性肥料（硫安など）を摘採14日前頃（2葉期）に行う。干ばつ時には施肥後の灌水や液肥が効果的である。  
※液肥の施用法：窒素含有量10%程度の資材を用いて、希釈倍率400~500倍で、2t/10aを目安に行う。

## **（2）防霜対策**

- 1) 防霜ファンの運転開始は、萌芽期前20日頃から行い、摘採まで運転を継続する。
- 2) 防霜ファンの設定温度は茶株面で3℃（茶株面より樹体は2~3℃低い）を基本とし、過度に設定値を上げない（晩霜害の発生助長やランニングコスト高になる場合がある）。
- 3) 茶園の傾斜等で温度差がある場合は、温度の低い場所を基準とする。  
※運転前の確認（支柱の傾き、角度、温度センサーの感度、メインスイッチ）を忘れずに。

## **（3）定植**

- 1) 地温が15℃以上になり、根の生育が活発になる時期（一般に3月下旬~4月上旬）に行う。寒冷地では寒害の心配がなくなる4月まで遅らせる方が良い。
- 2) 植穴は苗の根の深さまで掘り、細根を傷つけないように注意して丁寧に植え付け、根が深く入るよう誘導する。深植えになりすぎないように注意する。

## **（4）病虫害対策**

病虫害防除については、『令和2年度佐賀県施肥・病虫害防除・雑草防除のてびき』を参照してください。